

蓬萊橋のたもとで「ミズベリング大井川意見交換会」

◎建設課 ☎36・7186

12月1日、大井川の河川敷で蓬萊橋関連6団体・国土交通省静岡河川事務所・島田市が集まって、蓬萊橋周辺の恵まれた水辺環境を利用した魅力あるまちづくりについて、意見交換を行いました。

市は、市内外から年間10万人を超える人が訪れる観光スポット「蓬萊橋」における物販休憩所の整備やイベントの開催など、具体的な施策を検討するため、市民を交えた協議会の設立を目指しています。

参加者からは、蓬萊橋を生かした

周辺景観やトイレ、駐車場の整備を望む声などがあがりました。



蓬萊橋のたもとで行われた意見交換会

「あなたの夢を応援」対象となる新ビジネスが決定

◎戦略推進課 ☎36・7127

市では、10月に「島田市で創める新ビジネス応援事業補助金」を新設しました。この補助制度は、まち・ひと・しごと創生に向け、新たな事業や雇用の創出を促し、地域経済の活性化を目的としています。

応募された事業の審査を行い、本年度は4件の事業を採択。このうち、一つ目の美容院が、12月11日に市内にオープンしました。

本年度の受け付けは終了しましたが、次年度も事業を継続し、新ビジネスを応援していく予定です。創業

や新産業進出の新しい事業を検討している人は、ご相談ください。

※採択結果については、市ホームページでご覧になれます。



オープンした美容院

子どもの視点を大切に「防災標語コンテスト」表彰

◎危機管理課 ☎36・7143

市は12月15日、市役所で防災標語コンテストの表彰式を行いました。

防災標語コンテストは、災害時でも被災者に元気や勇気をもたらしてくれる子どもたちの貴重な視点を生かすため、小中学生対象に実施したものです。

応募のあった小学生の部895件・中学生の部490件の中から最優秀賞に選ばれたのは、天野由菜さん（島一小5年・左から2番目）と石日菜多さん（島一中3年・右から2番目）でした。



表彰を受けた皆さん

台湾の皆さんを招待して島田市の魅力を伝えました

◎観光課 ☎36・7163

市は12月22日～25日（3泊4日）、台湾から五福旅行社などを招待し、市内の観光スポットなどを紹介しました。

外国人の観光のポイントが「大都市から地方へ」という流れに移りゆく中、台湾からの訪日旅行者で静岡県を訪れた人は、前年度比3.8倍という高い伸びを示しています。この機会を利用して、台湾旅行社や旅行情報雑誌社の皆さんに大井川流域の魅力を広くPRしてもらえよう企画したものです。

市内の蓬萊橋、川越遺跡、大井川鐵道、ばらの丘公園、石畳茶屋、お茶の郷などを視察した後、川根温泉ホテルで意見交換を行い、今後の魅力発信の参考としました。



ばらの丘公園の視察

「御林守河村家・冑佛のお守り」が完成しました

◎観光課 ☎36・7163

12月8日、島田市観光特産品開発支援事業費補助金活用事業の補助を受けて製作した「御林守河村家・冑佛のお守り」が完成し、報告されました。

同事業は、市内の地域資源や特性を生かした「観光特産品」の開発を進めることが目的。市指定文化財「河村家住宅」の家宝「冑物」は、全国的にも希少価値が高く、その冑佛の持つ神秘性や魔よけなどの招福的要素を、心願成就のお守りとして商品化したものです。

材質は木製（ツゲ）で、縦25mm×横20mmのロケット式。販売は、御林守河村家（大代）で行っています。



ストラップタイプの冑佛のお守り

F M島田「防災番組コーナー」の放送を開始

◎危機管理課 ☎36・7143

「災害時に市内で何が必要になるのか」をメインテーマに、12月1日からFM島田で地域の特性を生かした新しい番組、防災インフォメーション「まもりびとしまだ」が始まりました。市が提供するこのコーナーでは、大規模災害が発生した時の市内の被害想定や警戒宣言発令時の対応など、万が一の災害に備える内容を紹介していきます。

放送は、月曜日から金曜日の午前6時55分と午後7時からの4分間。地域の防災意識の向上につながる内

容を目指します。

※FM島田は、パソコンや携帯電話を利用したサイマル放送でも聴くことができます。



災害に備えた情報を伝える消防職員

「子どもの目を見て話をしていますか」教育委員会から

◎教育総務課 ☎46・5613

教育委員会では、家庭と連携して教育力を高めるため17回目となる提言を行いました。

スマートフォン（携帯電話）などが普及し、インターネットやゲーム、SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）を、誰もが手軽に利用できる時代となりました。スマートフォンでの操作に気を取られ、子どもが話しかけても、その子に目を向けずに答える親が増えていきます。このような状態が続くと、子どもは愛着障害からイライラしたり、

切れやすくなったりするそうです。

今回の提言では、親子のコミュニケーションを充実させ、子どもたちにも豊かな人間関係を築いてほしいという願いを込めています。

提言

「子どもと話すときは、

互いに目を見て話しましょう」

○子どもと話をするときには、スマートフォンから手を放しましょう。

○時には、テレビを消して子どもと会話をしましょう。

○言葉はなくても、笑顔を向けることを大切にしましょう。

「島田市緑茶化計画」と「美濃焼」が連携

◎広報課 ☎36・7118

市では「島田市緑茶化計画」のさらなるPRにつなげるため、美濃焼で有名な岐阜県土岐市の若手陶芸家集団「ミノヤキセンパイ」との連携に取り組むことになりました。

22日に島田市を訪れたミノヤキセンパイのメンバーは、早速お茶の郷博物館を訪問。市茶業青年団から茶の製造工程や成分、淹れ方による味の違いの説明を受けたり、浅蒸し茶や深蒸し茶などを飲み比べました。メンバーは、3月までに島田市緑茶化計画とのコラボレーション茶器

を創作し、さまざまなイベントで展示・販売して、島田茶をPRしてくれます。

この連携は、島田市緑茶化計画を知ったミノヤキセンパイからのアプローチによって実現しました。

これをきっかけに、お茶などの販路が拡大していくことが期待されます。



茶業青年団から説明を受けるメンバー